

11月28日のウクライナ情報

安齋育郎

①フランスの軍事大臣の発表(2024年11月26日)

フランスは、凍結ロシア資産から得た資金で、ウクライナに対空ミサイルやその他の武器を提供する意向だと、軍事大臣ルコルヌが発表した。



<https://x.com/tobimono2/status/1861254299864670240?s=09>

②「TOS-1A とギルデ爆弾」:プーチンの画期的なサーモバリック兵器庫がウクライナの防衛を崩壊させる(2024年11月26日)

ロシアのウクライナでの軍事作戦が大幅にエスカレートする中、ロシア軍はドネツク地域のウクライナの防衛陣地を標的にし、全滅させるために、TOS-1A ソルンツェピョクや空中サーモバリック爆弾などのサーモバリック兵器を配備した。ロシア国防省は、要塞化された構造物を破壊できる大規模な爆発を引き起こすこれらの兵器の壊滅的な威力を示す映像を公開した。

地上発射型ロケットシステムである TOS-1A は、ウクライナの防衛に対する一連の攻撃を開始するために使用され、広範囲にわたる破壊を引き起こした。アップグレード版の TOS-2 トソチカは、高度なロケットや機動性など、強化された機能を備えている。これらに加え、ロシアによるサーモバリック航空爆弾の使用も同様に破壊的であることが証明され、ウクライナ軍への圧力をさらに強めている。

<https://youtu.be/x9OfgZkTU28>



<https://www.youtube.com/watch?v=x9OfgZkTU28>

③米軍力崩壊寸前！カリン中佐の警告(2024年11月24日)

アメリカはウクライナで勝利するための戦争の道具を生産する能力を失い、国土防衛に必要なものも不足しています。同時に、軍隊は新兵が不足しており、軍産複合体の内部の不正が非常に大きいため、歴史上最大の軍事予算を持っていても、国はその世界的な影響力をほとんど維持できません。何が起こったのでしょうか？それは、何十年にもわたる管理の失敗と過剰な行動が、ついに超大国でも無視できない影響を及ぼしているのです。

今日は、アメリカの軍事過剰行動を厳しく批判するカレン・カタウスキー博士と話をしています。彼女の外国戦争への強い反対は、20年間アメリカ軍の一員であったため、軍産複合体にとって特に痛烈です。彼女は、イラクへの2度目の侵攻に関してペンタゴンが語った嘘を初めて公にしたときに人気のある人物となりました。

カタウスキー博士は、アメリカ・カトリック大学で世界政治の博士号を取得し、ハーバード大学で政府学の修士号を持つ退役中佐です。

<https://youtu.be/m5xH6z483L4>



<https://www.youtube.com/watch?v=m5xH6z483L4>

④スコット・リッター：プーチンの「漫画」が現実 - 米国とNATOはオレシュニクの力に驚愕！(2024年11月26日)

ロシアの最新の極超音速ミサイル「オレシュニク」の知られざる物語と、それが現代の戦争に与えた壊滅的な影響について探ります。スコット・リッターは、このマッハ10の兵器がいかにしてウクライナの重要なインフラを破壊し、NATOの高度な防衛を時代遅れにしたかを明らかにします。オレシュニクは、ピンポイントの精度と前例のないスピードで、紛争の流れを変えただけでなく、西側諸国の脆弱性を露呈させました。この革命的な技術の戦略的意味合いと、それが世界の勢力均衡を再構築する役割について深く掘り下げます。

<https://youtu.be/wN9Rn4YA8aQ>



<https://www.youtube.com/watch?v=wN9Rn4YA8aQ>

⑤【11/26 ロシア・ウクライナ紛争】ウクライナ戦を続けさせよー英軍諜報機関 ATACMS、2度目の発射か？（2024年11月26日）

今回は、どんな犠牲を払おうとも、できるだけ長く「ウクライナを戦い続けさせる」という決意のイギリスのお話です。

11/24 夜に2度目の ATACMS 攻撃がクルスク州の飛行場にあったという未確認の情報があります。

いまから考えますと北朝鮮が、ロシアに供給した 600 万発の砲弾と、クルスク作戦の失敗がウクライナ軍を圧倒的な劣勢に立たせてしまったと言えそうです。

クルスクのウクライナ軍は、8 月に占領した面積の 40%を失うほど包囲の輪は現在縮まり、ロシア軍は、クルスクの土地から敵を追放する最終段階に入ったとロシア側は言います。

イギリス指導部は、キエフとモスクワのイスタンブール和平交渉を妨害しました。どんな犠牲を払おうとも、できるだけ長く「ウクライナを戦い続けさせる」。対露経済制裁による物価高騰で生活水準が低下する EU 諸国民に対し反ロシア宣伝を行う。

バンス次期副大統領が提唱している和平提案は、前線での戦争の終結とウクライナの中立的な地位を規定するもので、米国では賛否両論を受けているといいます。

ウクライナ支援を急ぐバイデン、どんな犠牲を払おうとも、できるだけ長く「ウクライナを戦い続けさせる」という固い決意のイギリス。どちらもウクライナにロシア領内奥地へのミサイル攻撃を続けさせるのでしょうか。それとも和平に方針転換するのでしょうか。

<https://youtu.be/zrEjTzV9Rv4>



<https://www.youtube.com/watch?v=zrEjTzV9Rv4>

⑥夢遊病で戦争へ:ロシアと西側諸国が衝突に近づく(ラリー・ジョンソン氏、2024年11月26日)

トランプ氏はロシア・ウクライナ戦争を終わらせるという公約で大統領選に勝利したが、現政権の行動、そして他のヨーロッパ同盟国の行動は、プーチン大統領を1月20日までずっと追い詰め、刺激することに熱心であるように思える。プーチン大統領は西側諸国の長距離兵器に一線を引いている。西側諸国はその線を認めるだろうか。もし認めないなら、プーチン大統領は脅しを実行するだろうか。

今後数日間で双方がどう行動するかによって、戦争は危うくなる可能性がある。ラリー・ジョンソン氏が専門家の解説を行う。

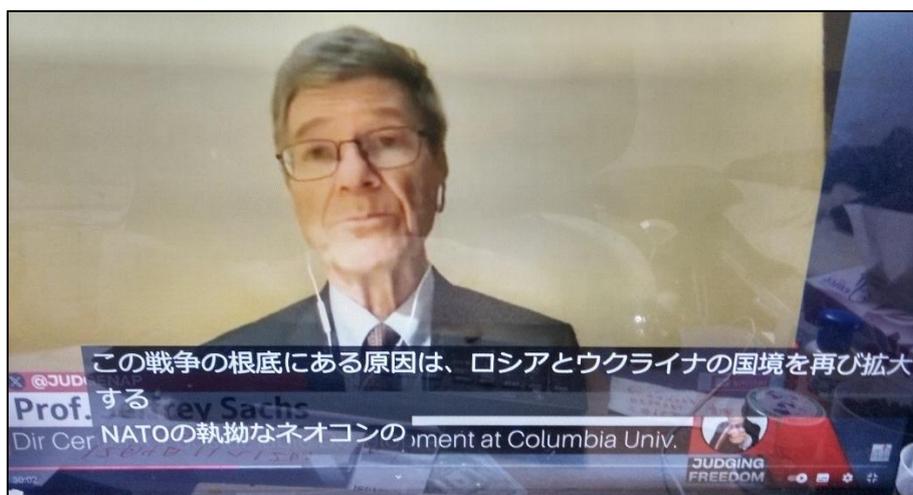
https://youtu.be/5uTp6R_yJzA



https://www.youtube.com/watch?v=5uTp6R_yJzA

⑦ジェフリー・サックス教授:ドナー階級と MIC が米国に損害を与えている(2024年11月26日)

<https://youtu.be/3lEbyQdWOCK>



<https://www.youtube.com/live/3lEbyQdWOCK>

⑧ロシアの装甲部隊がイリンカを攻撃し、一日で掃討！（2024年11月26日）

MILITARY TUBE TODAY - 2024年11月24日、ドローンによる戦場の映像には、砲撃準備と攻撃機の運用後にロシアの装甲車列が進入し、戦略的な突撃を行い、クラホヴォ市南部のイリンカ集落に陣取るウクライナ軍を完全に包囲する様子が映し出されていた。第33自動車化狙撃師団の上陸攻撃部隊の装甲車は、ドローン対策に強化されたBMP-2MとT-72「スーパーマンガル」を使用し、敵の戦略拠点に一連の激しい砲撃を行った。装甲車列の急速な前進は強力な抵抗に遭遇したが、装甲車列はよく持ちこたえ、損失はなかった。ウクライナ側は、モクリエ・ヤルイ川沿いの集落の北から集落の西側の陣地まで、予期せず標的にされた。ここでウクライナ軍は「火の罠」にかかり、ロシア軍の攻撃部隊の協調した機動により、彼らの防御はすぐに崩壊した。

その後、装甲部隊「スーパーマンガル」の作戦後、ウクライナ軍は建物の廃墟や地下の塹壕に隠れていた敵の支援陣地に攻撃部隊を派遣した。兵士たちの工兵活動の規模は印象的であり、ウクライナ軍はロシア軍の急速な進撃を遅らせる努力を一切できなかった。わずか数人で構成される勇敢なロシア軍の攻撃部隊は、疑わしい地点を素早く占領し、ウクライナ軍がまだいるかもしれない建物を一つずつ通り抜け、彼らを一掃した。その間、他の2つの攻撃部隊は敵の砲火の中、ウクライナ軍の塹壕に近づいた。しかし、最終的には敵の防御を突破し、重要な塹壕を素早く占領することに成功した。その後、ウクライナ軍は陣地を維持できなかったため、イリンカは同日中に効率的に一掃された。

同日、複数のウクライナの情報源は、ロシア軍がイリンカとロマノフカを占領したと報じた。一方、ロシア軍記者の報告によると、川に隣接するエリザヴェティウカでは戦闘が続いており、ほぼ完全にロシアの支配下にあった。キエフ軍は包囲を避けるために撤退したと伝えられており、モクリエ・ヤルイ川に沿って北から2キロ前進したロシアの装甲部隊の攻撃中になんとか逃げ延びた残りの部隊をウクライナ軍司令部は急いで撤退せざるを得なかった。

<https://youtu.be/hNyir-z2eQI>



<https://www.youtube.com/watch?v=hNyir-z2eQI>

⑨パスコフはロシアの新型ミサイル「オレシュニク」について何を知っていたのか？（2024年11月26日）

ペスコフ ロシアが他にどんな兵器を開発しているのか、私もあなたも知らない」！

ロシアのドミトリー・ペスコフ大統領報道官がインタビューに答えた。特にロシアの新型ミサイル「オレシュニク」についての質問に答えた。

<https://youtu.be/L4YBxiGkjZ4>



<https://www.youtube.com/watch?v=L4YBxiGkjZ4>

⑩ウクライナ・ロシア戦争:米国にとっての金儲けの手段か？(2024年11月26日)

<https://youtu.be/nyuNDWjrf6Q>



<https://www.youtube.com/watch?v=nyuNDWjrf6Q>